

IM-Workflow
Ver.7.2

ワークフローアーカイブ 仕様書

2011/04/01 初版

<< 變更履歷 >>

變更年月日	變更內容
2011/04/01	初版

<< 目次 >>

1	はじめに.....	1
1.1	目的.....	1
1.2	前提条件.....	1
2	システム概要.....	2
3	動作仕様.....	3
3.1	用語.....	3
3.2	ワークフローアーカイブ対象.....	3
3.3	アーカイブ指定日.....	3
3.4	処理フロー.....	5
3.5	アーカイブ案件情報の保存先.....	6
3.6	ワークフローアーカイブ処理結果.....	7
4	ワークフローアーカイブ設定ファイル.....	8
4.1	ワークフローアーカイブ期間設定.....	8
4.2	ワークフローアーカイブ期間.....	8
4.3	ワークフロー案件情報削除フラグ.....	8
4.4	ワークフロー案件履歴情報削除フラグ.....	9
4.5	ワークフロー案件モニタリング情報削除フラグ.....	9
4.6	FormatCreator利用ワークフロー案件情報削除フラグ.....	9
4.7	手動タスク削除フラグ.....	9
4.8	フローグループ利用レベル.....	9
4.9	ワークフローカテゴリID.....	10
4.10	過去案件削除リスナー設定.....	10
4.11	ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナー.....	11
4.12	ワークフローアーカイブ処理リスナー.....	11
4.13	ワークフロー案件削除処理リスナー.....	11
4.14	ワークフローアーカイブ前処理リスナー.....	12
4.15	ワークフローアーカイブ後処理リスナー.....	12
4.16	ワークフロー案件削除時エラー処理設定.....	12
4.17	フローグループ作成処理時エラー処理設定.....	13
4.18	過去案件参照権限付与処理時エラー処理設定.....	13
5	リスナー.....	14
5.1	ワークフローアーカイブ前処理リスナー.....	14
5.1.1	設定方法.....	14
5.1.2	リスナーの作成.....	14
5.2	ワークフローアーカイブ処理リスナー.....	15
5.2.1	ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナー.....	15
5.2.2	ワークフローアーカイブ処理リスナー.....	17
5.3	ワークフロー案件削除リスナー.....	18
5.3.1	設定方法.....	18
5.3.2	リスナーの作成.....	18
5.4	ワークフローアーカイブ後処理リスナー.....	19
5.4.1	設定方法.....	19
5.4.2	リスナーの作成.....	19
6	サブプロセス.....	21
6.1	フロー情報.....	21
6.1.1	サブプロセスを含むフローの統合イメージ.....	21

6.2	サブプロセス(申請)の場合	22
7	詳細画面	23
7.1	リクエストパラメータの種類と意味.....	23
7.2	サブプロセスの場合	24
7.3	プロセス種別がビジネスプロセスワークフローの場合	24
7.4	詳細画面の変更.....	25
7.4.1	ワークフローのリクエストパラメータを受け取る画面の変更	25
7.4.2	IM-Workflowのリクエストパラメータを受け取る画面の変更	25
8	注意事項	27

1 はじめに

1.1 目的

ワークフローアーカイブモジュールは、intra-mart WebPlatform / App Framework アドバンスド版以上に付属のワークフロー(以下、ワークフロー)にて、起票し完了した案件を IM-Workflow の過去案件として利用するためのバッチプログラムです。

本資料では、ワークフローアーカイブモジュールの動作仕様と拡張方法について解説します。

1.2 前提条件

ワークフローアーカイブモジュールを動作させるためには、**IM-Workflow Version 7.2.4** が動作する

intra-mart WebPlatform/AppFramework Version 7.2.3 アドバンスド版以上

の製品がインストールされている必要があります。

また、ワークフローの完了した案件は、**intra-mart WebPlatform/AppFramework Version 7.2.3** アドバンスド版以上の環境にて動作している必要があります。

本資料ではワークフロー固有の用語、IM-Workflow 固有の用語が使用されています。

その為、前提知識としてワークフローの基本的な機能と IM-Workflow の基本的な仕様を理解している必要があります。

ワークフローについての十分な知識を有していない場合は、「ワークフロー操作ガイド」 および「ワークフロー仕様書」を、IM-Workflow についての十分な知識を有していない場合は、「IM-Workflow 仕様書」を事前にお読みください。

2 システム概要

ワークフローアーカイブモジュールは、intra-mart 上で intra-mart Batch Server により実行されるバッチプログラムです。

バッチプログラムを起動すると、ワークフローの完了案件情報を取得し、IM-Workflow の過去案件情報として登録します。

登録された案件情報は、IM-Workflow の過去案件として参照できます。

バッチ名	IM-Workflow ワークフローアーカイブバッチ
バッチ ID	IMWBPWArchive
実行プログラム言語	JAVA
実行プログラムパス	jp.co.intra_mart.system.workflow_bpw.batch.ImwBpwArchive4CompletedProcessBatch

バッチ登録情報

3 動作仕様

この章では、ワークフローアーカイブモジュールの動作仕様について説明します。

3.1 用語

- アーカイブ案件
 - ワークフローアーカイブモジュールでアーカイブされた案件を「アーカイブ案件」といいます。
 - アーカイブ案件は、ワークフロー案件を基に IM-Worflow の過去案件として作成された案件情報です。
 - ワークフローアーカイブモジュールでの処理の単位として扱います。
- ワークフロー案件
 - ワークフローで申請、承認などの処理を行い処理が完了した案件。
 - ワークフローアーカイブモジュールでは、案件番号ごとの単位として扱います。

3.2 ワークフローアーカイブ対象

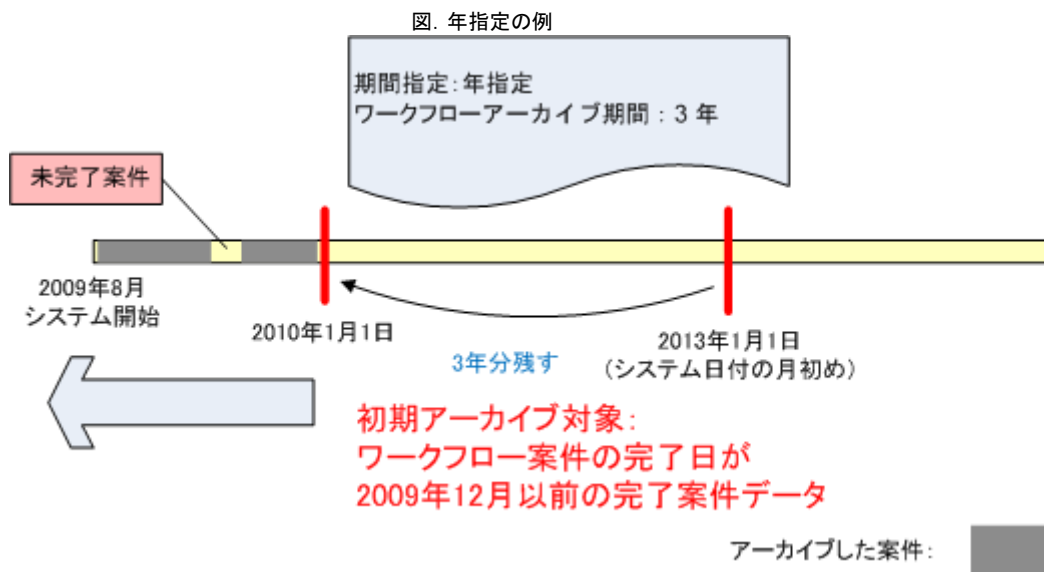
- ワークフローで、起票し、処理が完了した案件。
- アーカイブ指定日より前に完了した案件。
- ワークフローアーカイブ処理でアーカイブされていない案件。

3.3 アーカイブ指定日

ワークフローアーカイブモジュールではアーカイブの対象をアーカイブ指定日で制御します。

- アーカイブ指定日は年指定、月指定、年月日指定での指定ができます。
 - 年指定、または月指定の場合
 - ◇ 完了案件から「ワークフロー案件完了日 < (システム基準日 - 指定日)」となる案件を退避します。
 - ◇ システム基準日は、システム日付の月初となります。
システム日付が 2013 年 1 月 24 日の場合は、2013 年 1 月 1 日が基準日となります。
 - ◇ 例えば以下の場合、
 - システム日付: 2013 年 1 月 24 日
 - 年指定 3 年システム基準日が 2011 年 1 月 1 日となり、前日の 2010 年 12 月 31 日までに完了した案件がワークフローアーカイブ対象となります。
 - ◇ 月指定 1 カ月の場合は 2012 年 12 月 31 日までの案件をアーカイブ対象とします。
 - 年月日指定の場合
完了案件から「ワークフロー案件完了日 < 指定日」となる案件を退避します。

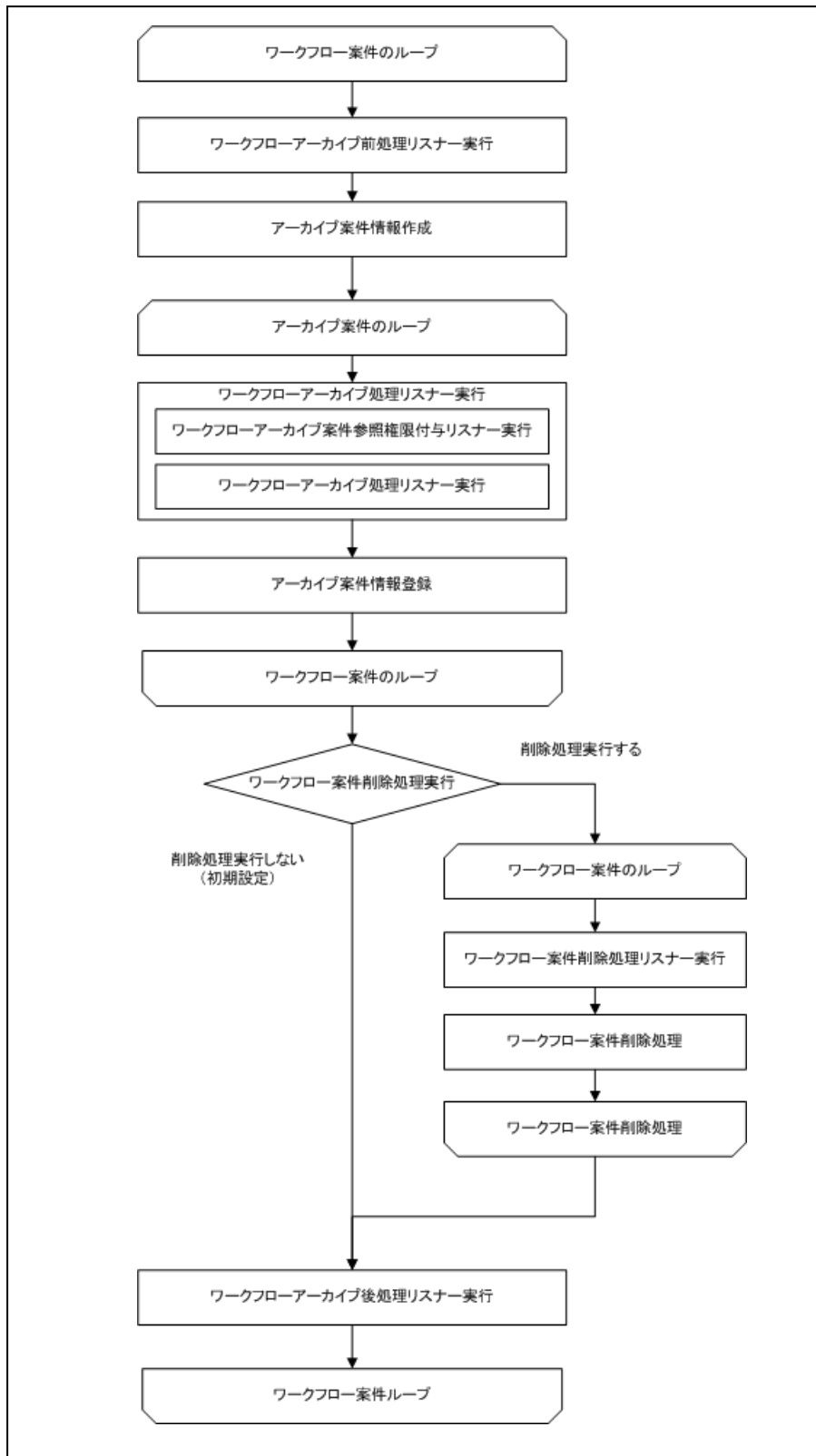
アーカイブ指定日、及びアーカイブ指定日の種類は「ワークフローアーカイブ処理設定ファイル」から取得します。



3.4 処理フロー

ワークフローアーカイブモジュールでのリスナーの実行フローは以下になります。

図.リスナー処理フロー



3.5 アーカイブ案件情報の保存先

ワークフローアーカイブモジュールを実行すると、案件情報は、IM-Workflow の過去案件情報として作成されます。また、ワークフロー案件特有情報として、ワークフローの詳細画面へ受け渡されるリクエストパラメータ情報をワークフロー案件テーブルとユーザアプリケーションキーテーブルに保存します。

ワークフロー案件特有情報を含め、案件情報につきましては、IM-Workflow のアーカイブ機能に準じます。詳細は「IM-Workflow 仕様書」の「2.16 アーカイブ」をご参照ください。

過去案件情報の保存先

- 条件
 - 元のテーブル名が【TABLE1】の場合
 - 2015年1月1日に実行、申請基準日【2013年3月15日】の場合
- アーカイブテーブル
 - imw_a (固定) + 申請基準日 + テーブル名
⇒ imw_a201303_TABLE1
- ファイルディレクトリ
 - ... / アーカイブルートディレクトリ(環境設定) / 申請基準月 / 申請基準日
⇒ ... / archive / 201303 / 15 / {トランザクションファイルデータ}

ワークフロー案件特有情報の保存先

- 条件
 - 元のテーブル名が【TABLE1】の場合
 - 2015年1月1日に実行、申請基準日【2013年3月15日】の場合
- アーカイブテーブル
 - imw_bpw_a (固定) + 申請基準日 + テーブル名
⇒ imw_bpw_a201303_TABLE1

保存された案件情報は、IM-Workflow の過去案件一覧画面から、IM-Workflow の過去案件として参照できます。

3.6 ワークフローアーカイブ処理結果

ワークフローアーカイブモジュールを実行し、処理が成功すると、処理結果ログが以下の様に作成されます。

```
<%Storage Service%>/storage/workflow_bpw/archive/%ログイングループ ID%/log_bpwArchive_yyyyMMdd_HHmms.xml
-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16"?>
<im-workflow>
  <targetDate archiveDate="%アーカイブ指定日" />
  <targetBpwProcess bpwArchiveStatus="%ワークフローアーカイブ処理結果フラグ%" processCode="%プロセスコード%"
    processDefCode="%プロセス定義コード%" versionCode="%履歴コード%">
    <bpwProcessDeleteStatus result="%ワークフロー案件情報削除処理結果フラグ(※1)%">
      <process>%ワークフロー案件情報削除フラグ%</process>
      <history>%ワークフロー案件履歴情報削除フラグ%</history>
      <monitoring>%ワークフロー案件モニタリング情報削除フラグ%</monitoring>
      <formatcreator>%FormatCreator 利用ワークフロー案件情報削除フラグ%</formatcreator>
    </bpwProcessDeleteStatus>
    <bpwProcessInfo>
      <bpwProcessNumber>%案件番号%</bpwProcessNumber>
      <bpwProcessEndStatus>%プロセス終了ステータス(※2)%</bpwProcessEndStatus>
      <systemMatterId>%システム案件 ID%</systemMatterId>
      <userDataId>%ユーザーデータ ID%</userDataId>
    </bpwProcessInfo>
    <bpwArchiveDate>%アーカイブ処理実行日時(yyyy/MM/dd HH:mm:ss)%</bpwArchiveDate>
    <draftAppointDate>%起票指定日(yyyy/MM/dd|HH:mm:ss)%</draftAppointDate>
    <archiveMonth>%アーカイブ日付(yyyyMM)%</archiveMonth>
  </targetBpwProcess>
</im-workflow>
```

※bpwProcessDeleteStatus の result 属性は、ワークフロー案件削除処理でエラーが出なかった場合は、"true"をエラーが出た場合は"false"となります。ワークフロー案件の削除の有無を表すものではありません。

プロセス終了ステータス	
審議中/通常終了	0
否認	1
取り止め	2
途中終了	3

4 ワークフローアーカイブ設定ファイル

ワークフローアーカイブモジュールでは、ワークフローアーカイブ処理でユーザーが変更可能な設定が定義されています。

<%Resource Service%>/pages/platform/src/workflow_bpw/workflow_bpw_archive.ini

4.1 ワークフローアーカイブ期間設定

ワークフローアーカイブ処理が対象とするワークフロー案件の期間設定を指定します。

パラメータ	値	説明
bpw-archive-config	period-year	年指定:「システム日付ー指定年数」より以前に完了したワークフロー案件をアーカイブ対象とします。
	period-month	月指定:「システム日付ー指定月数」より以前に完了したワークフロー案件をアーカイブ対象とします。
	specified-date	年月日指定:指定日より以前に完了したワークフロー案件をアーカイブ対象とします。未来日を指定できません。

4.2 ワークフローアーカイブ期間

ワークフローアーカイブ期間設定で指定した設定の年数/月数/指定日を設定します。

パラメータ	値	説明
bpw-archive-period	yy (0-99)	ワークフローアーカイブ期間設定が「年指定」の場合に年数を指定します。
	mm (0-99)	ワークフローアーカイブ期間設定が「月指定」の場合に月数を指定します。
	yyyy/MM/dd	ワークフローアーカイブ期間設定が「年月日指定」の場合に年月日を指定します。

4.3 ワークフロー案件情報削除フラグ

ワークフローアーカイブ処理成功後に、当該ワークフロー案件情報の削除可否を設定します。

パラメータ	値	説明
deleteProcessFlag	true	ワークフローアーカイブ処理成功後に当該ワークフロー案件情報を削除します。
	false (初期値)	ワークフローアーカイブ処理成功後に当該ワークフロー案件情報を削除しません。

ワークフロー案件情報を削除すると、詳細画面などでワークフローの API を利用できません。

また、FormatCreator を利用している案件の場合、詳細画面の表示や PDF 出力でのフロー情報表示できません。設定を変更する場合はご注意ください。

4.4 ワークフロー案件履歴情報削除フラグ

ワークフローアーカイブ処理成功後に、当該ワークフロー案件履歴情報の削除可否を設定します。

パラメータ	値	説明
deleteHistoryFlag	true	ワークフローアーカイブ処理成功後に当該ワークフロー案件履歴情報を削除します。
	false (初期値)	ワークフローアーカイブ処理成功後に当該ワークフロー案件履歴情報を削除しません。

4.5 ワークフロー案件モニタリング情報削除フラグ

ワークフローアーカイブ処理成功後に、当該ワークフロー案件のモニタリング情報の削除可否を設定します。

パラメータ	値	説明
deleteMonitoringFlag	true	ワークフローアーカイブ処理成功後に当該ワークフロー案件モニタリング情報を削除します。
	false (初期値)	ワークフローアーカイブ処理成功後に当該ワークフロー案件モニタリング情報を削除しません。

4.6 FormatCreator利用ワークフロー案件情報削除フラグ

ワークフローアーカイブ処理成功後に、当該ワークフロー案件が FormatCreator 利用案件の削除可否を設定します。

FormatCreator 利用案件を削除した場合に、過去案件情報参照時に正しく動作しない場合があります。また、本フラグを true にしても FormatCreator のデータは削除されません。

パラメータ	値	説明
deleteFormatCreatorFlag	true	ワークフローアーカイブ処理成功後に当該ワークフロー案件情報を削除します。
	false (初期値)	ワークフローアーカイブ処理成功後に当該ワークフロー案件が FormatCreator 利用案件である場合にワークフロー案件情報を削除しません。

4.7 手動タスク削除フラグ

ワークフロー案件のプロセス定義で手動処理を配置している場合に、手動処理の削除可否を設定します。

パラメータ	値	説明
deleteManualNodeFlag	true (初期値)	ワークフローアーカイブ処理時にプロセス定義の手動処理を削除してフロー情報を作成します。
	false	ワークフローアーカイブ処理時にプロセス定義の手動処理をシステムノードに置き換えてフロー情報を作成します。

4.8 フローグループ利用レベル

ワークフロー案件が紐づくカテゴリ情報を IM-Workflow のフローグループとして登録します。

パラメータ	値	説明
flowGroupUsedLevel	0	ワークフローカテゴリをフローグループとして登録し、ワークフロー案件を紐づけます。
	1 (初期値)	フローグループ「ワークフローカテゴリ ID」配下にワークフローのカテゴリをフローグループとして登録し、ワークフロー案件を紐づけます。
	2	ワークフロー案件をフローグループへの紐づけを行いません。

4.9 ワークフローカテゴリID

フローグループ利用レベルで"1"を設定した場合に、ワークフロー案件の紐づくカテゴリ情報を IM-Workflow のフローグループとして登録します。

パラメータ	値	説明
bpwCategoryId	ID	ワークフローカテゴリの親フローグループとして登録するフローグループ ID を設定します。

4.10 過去案件削除リスナー設定

ワークフローアーカイブ処理でアーカイブされた案件の削除時に実行するリスナーを設定します。

パラメータ	値	説明
archiveMatterDeleteListenerSettingListenerType	java	過去案件削除リスナーが JavaEE 開発モデルの場合。
	script	過去案件削除リスナーがスクリプト開発モデルの場合。
archiveMatterDeleteListenerSettingListener	クラスパス	リスナータイプが「java」の場合は、クラスパスを設定。
	スクリプトパス	リスナータイプが「script」の場合は Resource Service からのパス。拡張子なし。ディレクトリは"/"区切り。

4.11 ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナー

ワークフローアーカイブ処理でアーカイブする案件に参照権限を付与するリスナーです。

パラメータ	値	説明
bpwArchiveMatterAuthUserEventListenerType	java	ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナーが JavaEE 開発モデルの場合。
	script	ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナーがスクリプト開発モデルの場合。
bpwArchiveMatterAuthUserEventListener	クラスパス	リスナータイプが「java」の場合は、クラスパスを設定。
	スクリプトパス	リスナータイプが「script」の場合は Resource Service からのパス。拡張子なし。ディレクトリは"/"区切り。

初期設定は、ワークフロー案件の各処理者(本人)が参照権限を付与する JavaEE 開発モデルの以下のリスナーが設定されています。

```
jp.co.intra_mart.system.workflow_bpw.plugin.archive.process.ImwBpwArchiveMatterAuthUserStandardEventListener
```

4.12 ワークフローアーカイブ処理リスナー

ワークフローアーカイブ処理で実行されるリスナーです。

パラメータ	値	説明
processEventListenerType	java	ワークフローアーカイブ処理リスナーが JavaEE 開発モデルの場合。
	script	ワークフローアーカイブ処理リスナーがスクリプト開発モデルの場合。
processEventListener	クラスパス	リスナータイプが「java」の場合は、クラスパスを設定。
	スクリプトパス	リスナータイプが「script」の場合は Resource Service からのパス。拡張子なし。ディレクトリは"/"区切り。

4.13 ワークフロー案件削除処理リスナー

ワークフローアーカイブ処理が成功したワークフロー案件の削除処理で実行されるリスナーです。

パラメータ	値	説明
deleteProcessEventListenerType	java	ワークフロー案件削除処理リスナーが JavaEE 開発モデルの場合。
	script	ワークフロー案件削除処理リスナーがスクリプト開発モデルの場合。
deleteProcessEventListener	クラスパス	リスナータイプが「java」の場合は、クラスパスを設定。
	スクリプトパス	リスナータイプが「script」の場合は Resource Service からのパス。拡張子なし。ディレクトリは"/"区切り。

4.14 ワークフローアーカイブ前処理リスナー

ワークフローアーカイブ処理の前にワークフロー案件ごとに実行されるリスナーです。

パラメータ	値	説明
preProcessEventListenerType	java	ワークフローアーカイブ前処理リスナーが JavaEE 開発モデルの場合。
	script	ワークフローアーカイブ前処理リスナーがスクリプト開発モデルの場合。
preProcessEventListener	クラスパス	リスナータイプが「java」の場合は、クラスパスを設定。
	スクリプトパス	リスナータイプが「script」の場合は Resource Service からのパス。拡張子なし。ディレクトリは"/"区切り。

4.15 ワークフローアーカイブ後処理リスナー

ワークフローアーカイブ処理と、ワークフロー案件削除処理の後にワークフロー案件ごとに実行されるリスナーです。

パラメータ	値	説明
postProcessEventListenerType	java	ワークフローアーカイブ後処理リスナーが JavaEE 開発モデルの場合。
	script	ワークフローアーカイブ後処理リスナーがスクリプト開発モデルの場合。
postProcessEventListener	クラスパス	リスナータイプが「java」の場合は、クラスパスを設定。
	スクリプトパス	リスナータイプが「script」の場合は Resource Service からのパス。拡張子なし。ディレクトリは"/"区切り。

4.16 ワークフロー案件削除時エラー処理設定

ワークフローアーカイブ処理成功後に、ワークフロー案件削除処理でエラーが発生した場合のエラー処理を設定します。

パラメータ	値	説明
bpwProcessDeleteErrorHandling	ERROR (初期値)	ワークフロー案件削除処理時にエラーが発生した場合に当該ワークフロー案件のワークフローアーカイブ処理をロールバックします。
	WARNING	ワークフロー案件削除処理時にエラーが発生した場合に当該ワークフロー案件のワークフローアーカイブ処理はコミットし、ワークフロー案件削除処理だけをロールバックします。

4.17 フローグループ作成処理時エラー処理設定

ワークフローアーカイブ処理時にフローグループの登録やワークフロー案件の紐づけに失敗した場合のエラー処理を設定します。

パラメータ	値	説明
flowGroupCreateErrorHandling	ERROR	ワークフローアーカイブ処理時にフローグループの登録、紐づけ処理に失敗した場合に当該ワークフロー案件のワークフローアーカイブ処理をロールバックします。
	WARNING (初期値)	ワークフローアーカイブ処理時にフローグループの登録、紐づけ処理に失敗した場合に当該ワークフロー案件のワークフローアーカイブ処理を続行します。

4.18 過去案件参照権限付与処理時エラー処理設定

ワークフローアーカイブ処理の参照権限付与処理時にエラーが発生した場合のエラー処理を設定します。

パラメータ	値	説明
flowGroupCreateErrorHandling	ERROR	ワークフローアーカイブ処理の参照権限付与処理時にエラーが発生した場合に当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をロールバックします。
	WARNING (初期値)	ワークフローアーカイブ処理の参照権限付与処理時にエラーが発生した場合に当該ワークフロー案件のアーカイブ処理を続行します。

5 リスナー

ワークフローアーカイブモジュールでは、処理中に以下のリスナーを呼び出します。

本機能を利用するワークフローを利用するユーザはリスナーを拡張して、ワークフローアーカイブ処理に独自の処理を追加できます。

- ワークフローアーカイブ前処理リスナー
- ワークフローアーカイブ処理リスナー
 - ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナー
 - ワークフローアーカイブ処理リスナー
- ワークフロー案件削除リスナー
- ワークフローアーカイブ後処理リスナー

以降で詳細を説明します。

5.1 ワークフローアーカイブ前処理リスナー

ワークフローアーカイブ前処理リスナーとは、ワークフローアーカイブ処理前にアーカイブ対象のワークフロー案件ごとに実行されるプログラムです。

このプログラム中で、データベースの登録／更新／削除処理を行う場合は、独自に DB トランザクション制御を行ってください。

以下の場合、当該ワークフロー案件のアーカイブをスキップします。

- Java プログラムで例外をスローした場合
- スクリプトプログラムで処理結果情報オブジェクトの結果フラグに `false` を設定した場合

5.1.1 設定方法

ワークフローアーカイブ前処理リスナーの設定は、「ワークフローアーカイブ設定ファイル」で以下を編集してください。

```
#####
# ワークフローアーカイブ前処理リスナー
#####
# ワークフローアーカイブ前処理リスナータイプ
#   java   : ワークフローアーカイブ前処理リスナーが JavaEE 開発プログラムの場合。
#   script : ワークフローアーカイブ前処理リスナーがスクリプト開発モデルプログラムの場合。
preProcessEventListenerType=

# ワークフローアーカイブ前処理リスナーパス
#   Java プログラムの場合は、クラスパスを指定します。
#   JavaScript の場合は、スクリプトパス("/"区切りで拡張子なし)を指定します。
preProcessEventListener=
```

5.1.2 リスナーの作成

ワークフローアーカイブ前処理リスナーは、「JavaEE 開発モデル」または「スクリプト開発モデル」のどちらかで作成することができます。

5.1.2.1 JavaEE開発モデルの場合

- インターフェース
`jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.ImwBpwArchiveMatterPreProcessEventListener`
- パラメータ
`jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.param.ImwBpwArchiveMatterParameter`
- 返却値
なし
- 例外
当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をスキップします。

5.1.2.2 スクリプト開発モデルの場合

- インターフェース

```
function execute(parameter) {
    /* ロジックを記述 */
}
```
- パラメータ
`ImwBpwArchiveMatterParameter`
- 返却値
`WorkflowResultInfo`
返却値が `null` の場合や、`resultFlag` が `true` の場合はアーカイブ処理を継続します。
`resultFlag` の値が `false` の場合は、当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をスキップします。

5.2 ワークフローアーカイブ処理リスナー

ワークフローアーカイブ処理リスナーとは、ワークフローアーカイブ処理中に IM-Workflow の案件ごとに実行されるプログラムです

またワークフローアーカイブモジュールのトランザクション内で実行されるため、このプログラム中では DB トランザクション制御を行うことはできません。

以下の場合、当該ワークフロー案件のアーカイブをスキップします。

- Java プログラムで例外をスローした場合
- スクリプトプログラムで処理結果情報オブジェクトの結果フラグに `false` を設定した場合

ワークフローアーカイブ処理として、以下の2つを設定できます。

- ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナー
- ワークフローアーカイブ処理リスナー

5.2.1 ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナー

アーカイブ案件の参照権限を付与します。

初期設定は、ワークフロー案件を各タスクで処理した本人(代理の場合は代理元)に参照権限が付与するリスナーが「ワークフローアーカイブ設定ファイル」に設定されています。

設定ファイルの設定値なしの場合は、参照権限は付与されません。

5.2.1.1 設定方法

ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナーの設定は、「ワークフローアーカイブ設定ファイル」で以下を編集してください。

```
#####
# ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナー
#####
# ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナータイプ
#   java   : 案件参照権限付与リスナーが JavaEE 開発プログラムの場合。
#   script : 案件参照権限付与リスナーがスクリプト開発モデルプログラムの場合。
#   初期値 : java
bpwArchiveMatterAuthUserEventListenerType=java

# ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナーパス
#   Java プログラムの場合は、クラスパスを指定します。
#   JavaScript の場合は、スクリプトパス("/"区切りで拡張子なし)を指定します。
#   初期値
# : jp.co.intra_mart.system.workflow_bpw.plugin.archive.process.ImwBpwArchiveMatterAuthUserStandardEventListener
#   ワークフロー案件を処理した本人のみ過去案件の参照権限を付与します
bpwArchiveMatterAuthUserEventListener
=jp.co.intra_mart.system.workflow_bpw.plugin.archive.process.ImwBpwArchiveMatterAuthUserStandardEventListener
```

5.2.1.2 リスナーの作成

ワークフローアーカイブ案件参照権限付与リスナーは、「JavaEE 開発モデル」または「スクリプト開発モデル」のどちらかで作成することができます。

5.2.1.2.1 JavaEE開発モデルの場合

- インターフェース
jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.ImwBpwArchiveMatterProcessEventListener
- パラメータ
jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.param.ImwBpwArchiveMatterProcessParameter
- 返却値
jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.model.ImwBpwArchiveMatterProcessResultModel
返却値が null の場合は、設定情報は変更せずに当該ワークフロー案件のアーカイブ処理を継続します。
- 例外
当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をスキップします。

5.2.1.2.2 スクリプト開発モデルの場合

- インターフェース
function execute(parameter) {
/* ロジックを記述 */
}
- パラメータ
ImwBpwArchiveMatterProcessParameter
- 返却値
WorkflowResultInfo
data 属性には ImwBpwArchiveMatterProcessResultInfo を設定して返却してください。
返却値が null の場合は、設定情報は変更せずに当該ワークフロー案件のアーカイブ処理を継続します。
resultFlag の値が false の場合は、当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をスキップします。

5.2.2 ワークフローアーカイブ処理リスナー

ワークフロー案件のアーカイブ処理時に行うリスナーを設定できます。

5.2.2.1 設定方法

ワークフローアーカイブ処理リスナーの設定は、「ワークフローアーカイブ設定ファイル」で以下を編集してください。

```
#####
# ワークフローアーカイブ処理リスナー
#####
# ワークフローアーカイブ処理実行時にワークフロー案件ごとに実行されるリスナーのプログラム種別を指定します。
#   java   : ワークフローアーカイブリスナーが JavaEE 開発プログラムの場合。
#   script : ワークフローアーカイブリスナーがスクリプト開発モデルプログラムの場合。
processEventListenerType=

# ワークフローアーカイブリスナーパス
# ワークフローアーカイブ実行時にワークフロー案件ごとに実行されるリスナーのプログラムパスを指定します。
#   Java プログラムの場合は、クラスパスを指定します。
#   JavaScript の場合は、スクリプトパス("/"区切りで拡張子なし)を指定します。
processEventListener=
```

5.2.2.2 リスナーの作成

ワークフローアーカイブ処理リスナーは、「JavaEE 開発モデル」または「スクリプト開発モデル」のどちらかで作成することができます。

5.2.2.2.1 JavaEE開発モデルの場合

- インターフェース

```
jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.ImwBpwArchiveMatterProcessEventListener
```

- パラメータ

```
jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.param.ImwBpwArchiveMatterProcessParameter
```

- 返却値

```
jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.model.ImwBpwArchiveMatterProcessResultModel
```

返却値が null の場合は、設定情報は変更せずに当該ワークフロー案件のアーカイブ処理を継続します。

- 例外

当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をスキップします。

5.2.2.2.2 スクリプト開発モデルの場合

- インターフェース

```
function execute(parameter) {
    /* ロジックを記述 */
}
```

- パラメータ

```
ImwBpwArchiveMatterProcessParameter
```

- 返却値

```
WorkflowResultInfo
```

- data 属性には `ImwBpwArchiveMatterProcessResultInfo` を設定して返却してください。

返却値が null の場合は、設定情報は変更せずに当該ワークフロー案件のアーカイブ処理を継続します。

`resultFlag` の値が false の場合は、当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をスキップします。

5.3 ワークフロー案件削除リスナー

ワークフロー案件削除リスナーとは、ワークフローアーカイブ処理に成功したワークフロー案件情報を削除する処理中にワークフロー案件ごとに実行されるプログラムです。

またワークフローアーカイブモジュールのトランザクション内で実行されるため、このプログラム中では DB トランザクション制御を行うことはできません。

以下の場合には、当該ワークフロー案件の削除処理をスキップします。

- Java プログラムで例外をスローした場合
- スクリプトプログラムで処理結果情報オブジェクトの結果フラグに `false` を設定した場合

ワークフロー案件の削除処理をスキップする場合に、ワークフローアーカイブ処理もスキップしたい場合はワークフローアーカイブ設定ファイルの「ワークフロー案件削除エラーハンドリング」の値を「`ERROR`」と設定してください。

5.3.1 設定方法

ワークフロー案件削除リスナーの設定は、ワークフローアーカイブ設定ファイルで以下で編集してください。

```
#####
# ワークフロー案件削除リスナー
#####
# ワークフロー案件削除リスナータイプ
#   java   : ワークフロー案件削除リスナーが JavaEE 開発プログラムの場合。
#   script : ワークフロー案件削除リスナーがスクリプト開発モデルプログラムの場合。
deleteProcessEventListenerType=

# ワークフロー案件削除リスナーパス
#   Java プログラムの場合は、クラスパスを指定します。
#   JavaScript の場合は、スクリプトパス("/"区切りで拡張子なし)を指定します。
deleteProcessEventListener=
```

5.3.2 リスナーの作成

ワークフローアーカイブ前処理リスナーは、「JavaEE 開発モデル」または「スクリプト開発モデル」のどちらかで作成することができます。

5.3.2.1 JavaEE開発モデルの場合

- インターフェース
`jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.ImwBpwArchiveDeleteProcessEventListener`
- パラメータ
`jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.param.ImwBpwArchiveDeleteProcessParameter`
- 返却値
`jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.model.ImwBpwArchiveDeleteProcessResultModel`
返却値が `null` の場合は、設定情報は変更せずに当該ワークフロー案件の削除処理を継続します。
- 例外
当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をスキップします。

5.3.2.2 スクリプト開発モデルの場合

- インターフェース

```
function execute(parameter) {
    /* ロジックを記述 */
}
```

- パラメータ

`ImwBpwArchiveDeleteProcessParameter`

- 返却値

`WorkflowResultInfo`

`data` 属性には `ImwBpwArchiveDeleteProcessResultInfo` を設定して返却してください。

返却値が `null` の場合は、設定情報は変更せずに当該ワークフロー案件の削除処理を継続します。

`resultFlag` の値が `false` の場合は、当該ワークフロー案件のアーカイブ処理をスキップします。

5.4 ワークフローアーカイブ後処理リスナー

ワークフローアーカイブ後処理リスナーとは、ワークフローアーカイブ処理、ワークフロー案件削除処理が終了した後でワークフロー案件ごとに実行されるプログラムです。

このプログラム中で、データベースの登録／更新／削除処理を行う場合は、独自に DB トランザクション制御を行ってください。

このプログラム中で例外やエラーが発生しても、ワークフローアーカイブ処理には影響しません。

ワークフロー案件を削除した場合は、ワークフロー API は利用できない場合があります。

5.4.1 設定方法

ワークフローアーカイブ後処理リスナーの設定は、ワークフローアーカイブ設定ファイルで以下を編集してください。

```
#####
# ワークフローアーカイブ後処理リスナー
#####
# ワークフローアーカイブ後処理リスナータイプ
#   java      : ワークフローアーカイブ後処理リスナーが JavaEE 開発プログラムの場合。
#   script    : ワークフローアーカイブ後処理リスナーがスクリプト開発モデルプログラムの場合。
postProcessEventListenerType=

# ワークフローアーカイブ後処理リスナーパス
#   Java プログラムの場合は、クラスパスを指定します。
#   JavaScript の場合は、スクリプトパス(“/”区切りで拡張子なし)を指定します。
postProcessEventListener=
```

5.4.2 リスナーの作成

ワークフローアーカイブ後処理リスナーは、「JavaEE 開発モデル」または「スクリプト開発モデル」のどちらかで作成することができます。

5.4.2.1 JavaEE開発モデルの場合

- インターフェース

`jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.ImwBpwArchiveMatterPostProcessEventListener`

- パラメータ

`jp.co.intra_mart.foundation.workflow_bpw.listener.param.ImwBpwArchiveMatterPostProcessParameter`

- 返却値

なし

- 例外

ワークフローアーカイブ処理に影響しません。

5.4.2.2 スクリプト開発モデルの場合

- インターフェース

```
function execute(parameter) {  
  
    /* ロジックを記述 */  
  
}
```

- パラメータ

`ImwBpwArchiveMatterPostProcessParameter`

- 返却値

なし

6 サブプロセス

ワークフローにて、サブプロセスを利用していた場合は、親プロセスに統合された案件としてアーカイブされます。

6.1 フロー情報

サブプロセスのフロー情報は、親プロセスのフロー情報のサブプロセスアイコンがサブプロセスのフロー情報に置換され表示されます。

サブプロセスのプロセス定義で設定した「スイムレーン」、「注釈」は表示されません。

6.1.1 サブプロセスを含むフローの統合イメージ

■ 親プロセス

フロー情報 最新情報 開じる

案件番号 00000000000000000002

案件名 サブプロセスを使用

凡例: (赤枠)→待ち (青枠)→完了 (黄枠)→保留

処理名	処理者 [代理依頼元]	所属情報	結果	処理日	処理期限	コメント
申請者	香柳辰巳	サンプル課11	申請	2011/03/25		
第1承認者	片山聡	サンプル課11	承認	2011/03/25		
第2承認者	円山益男	サンプル部門01	承認	2011/03/25		
サブプロセス				2011/03/25		

■ サブプロセス

フロー情報 最新情報 開じる

親プロセス表示

案件番号 00000000000000000003

案件名 サブプロセスを使用

凡例: (赤枠)→待ち (青枠)→完了 (黄枠)→保留

処理名	処理者 [代理依頼元]	所属情報	結果	処理日	処理期限	コメント
サブ第1承認者	関根千香	サンプル課12	承認	2011/03/25		
サブ第2承認者	吉川一哉	サンプル部門01	承認	2011/03/25		

統合イメージ

処理日時	ノード名	処理	処理者	代理先	担当組織
2011/03/25 10:54	申請者	申請	吉柳辰巳		サンプル課11
2011/03/25 10:54	第1承認者	承認	片山聡		サンプル課11
2011/03/25 10:55	第2承認者	承認	円山益男		サンプル部門01
2011/03/25 10:55	サブ第1承認者	承認	関根千香		サンプル課12
2011/03/25 10:56	サブ第2承認者	承認	吉川一哉		サンプル部門01

6.2 サブプロセス(申請)の場合

サブプロセスの先頭タスクに「申請画面」を設定していた場合は、サブプロセスが統合された親プロセスとは別に、サブプロセスも案件として登録されます。フロー参照や履歴情報では、親プロセスの案件と同じものが表示されます。詳細画面は、親プロセスの案件では、親プロセスの詳細画面が、サブプロセスの案件ではサブプロセスの詳細画面が表示されます。

	サブプロセス(申請)	サブプロセス(承認)
過去案件	親プロセスとは別案件	親プロセスを参照
詳細画面	サブプロセスの詳細画面	親プロセスを参照
フロー参照	親プロセスと同じ履歴情報を表示	親プロセスを参照
履歴参照	親プロセスと同じフロー情報を表示	親プロセスを参照

7 詳細画面

ワークフローアーカイブモジュールによりアーカイブされた案件は、IM-Workflow の過去案件として参照できません。

詳細画面は、初期設定では IM-Workflow のリクエストパラメータを受け取り、ワークフローのリクエストパラメータを受け渡す画面を介して、ワークフローの**詳細画面**を呼び出します。

ワークフロー案件情報が削除されると、ワークフロー API は利用できない場合があるため、詳細画面での**ワークフロー API**の利用は推奨しません。

7.1 リクエストパラメータの種類と意味

リクエストパラメータの種類と、取得される情報の内容について解説します。

プロセス種別 【ビジネスプロセスワークフロー】・【ドキュメントワークフロー】・【申請者/承認者ルート作成ワークフロー】 すべてのプロセス種別にて共通パラメータ		
パラメータ	名称	詳細
account	ログインユーザコード	ログインしているユーザのユーザコード
group	ログインしている ログイングループ ID	ログイングループ ID
caller	遷移前の画面情報	"" (空文字)
path	ページパス	ページ種別が、 【PresentationPage ページ】、 【Servlet or JSP ページ】(JSP)…………… 取得可能 【JavaEE FrameWork ページ】…………… 空文字
application	アプリケーション ID	ページ種別が、 【JavaEE FrameWork ページ】…………… 取得可能 【PresentationPage ページ】、 【Servlet or JSP ページ】(JSP)…………… 空文字
service	サービス ID	
parent_process_def_cd	サブプロセス利用時の場合 の親プロセス定義 CD	ワークフロー案件が 【サブプロセスの場合】…………… 取得可能 【通常のプロセス定義の場合】…………… 空文字
parent_version_cd	サブプロセス利用時の場合 の親バージョン CD	
parent_process_cd	サブプロセス利用時の場合 の親プロセス CD	
bpw_draft_appoint_date	起票指定日	取得形式 「yyyy/MM/dd HH:mm:ss」
im_mark im_from im_action im_active	URL 整合性チェック用 パラメータ	【スクリプト開発モデル】内でページにアクセスする場合に、 システム内部で利用しているものであり、ワークフローには関連性は ありません。⇒使用用途の必要性はありません。 取得できない場合もあります。
user_setting_key	ユーザ任意指定 リクエストパラメータ	「ユーザ任意指定リクエストパラメータ」を参照ください。

プロセス種別 【ドキュメントワークフロー】・【申請者/承認者ルート作成ワークフロー】の場合 ・・・次のパラメータも取得します。		
パラメータ	名称	詳細
bpw_process_def_cd	プロセス定義 CD	案件のプロセス定義コード
bpw_version_cd	バージョン CD	案件の履歴コード
bpw_activity_cd	アクティビティ CD	"" (空文字)
bpw_process_cd	プロセス CD	案件のプロセスコード
bpw_agt_user_cd	代理元ユーザ CD	"" (空文字)
bpw_app_type	代理フラグ	"" (空文字)
bpw_parameter_cds	ユーザアプリケーションキー	カンマ区切りの文字列
bpw_ack_mode	申請区分	detail
bpw_ack_retry_type	再申請区分	"" (空文字)
next_task_type	次タスク処理タイプ	"" (空文字)
next_task_info_flg	次タスク情報設定フラグ	"" (空文字)

プロセス種別 【ビジネスプロセスワークフロー】の場合 ・・・次のパラメータも取得します。		
パラメータ	名称	詳細
process_def_cd	プロセス定義 CD	案件のプロセス定義コード
version_cd	バージョン CD	案件の履歴コード
activity_cd	アクティビティ CD	"" (空文字)
process_cd	プロセス CD	案件のプロセスコード
agent_user_cd	代理元ユーザ CD	"" (空文字)
mineTransferFlg	代理フラグ	"" (空文字)
contentsType	コンテンツ種別タイプ	DETAIL
next_task_info_flg	動的タスク設定フラグ	"" (空文字)

7.2 サブプロセスの場合

サブプロセスの先頭タスクに「申請画面」を設定していた場合は、初期設定ではサブプロセスの詳細画面が表示されます。

7.3 プロセス種別がビジネスプロセスワークフローの場合

ドキュメントワークフローと同様にポップアップで詳細画面が表示されます。

7.4 詳細画面の変更

詳細画面のパスを変更する場合は、ワークフローアーカイブ処理リスナーで、変更するパスを設定することで変更できます。ワークフローアーカイブ処理リスナーについては、「5.2 ワークフローアーカイブ処理リスナー」を参照してください。

7.4.1 ワークフローのリクエストパラメータを受け取る画面の変更

ワークフローのリクエストパラメータを受け取る詳細画面を変更する場合は、ワークフローアーカイブ処理リスナーで返却する「ワークフローアーカイブ処理リスナー処理結果情報」に以下の情報を設定してください。

- 詳細画面がスクリプト開発モデルの場合

bpwDetailPagePathType	"0" (文字列)
bpwDetailPageScriptPath	%Resource Service のルートからのパス% (区切り文字は"/"、拡張子なし)

- 詳細画面が JavaEE 開発モデルの場合

bpwDetailPagePathType	"1" (文字列)
bpwDetailPageApplicationId	アプリケーション ID
bpwDetailPageServiceId	サービス ID

- 詳細画面が JSP or Servlet の場合

bpwDetailPagePathType	"2" (文字列)
bpwDetailPagePagePath	ページパス (区切り文字は"/"、拡張子あり)

7.4.2 IM-Workflowのリクエストパラメータを受け取る画面の変更

初期設定で設定されている IM-Workflow の過去案件一覧画面から直接呼ばれる詳細画面を変更する場合は、ワークフローアーカイブ処理リスナーで返却する「ワークフローアーカイブ処理リスナー処理結果情報」に以下の情報を設定してください。

- 詳細画面がスクリプト開発モデルの場合

archiveMatterPagePathType	"0" (文字列)
archiveMatterPageScriptPath	%Resource Service のルートからのパス% (区切り文字は"/"、拡張子なし)

- 詳細画面が JavaEE 開発モデルの場合

archiveMatterPagePathType	"1" (文字列)
archiveMatterPageApplicationId	アプリケーション ID
archiveMatterPageServiceId	サービス ID

- 詳細画面が JSP or Servlet の場合

archiveMatterPagePathType	"2" (文字列)
archiveMatterPagePagePath	ページパス (区切り文字は"/"、拡張子あり)

初期設定として、IM-Workflow のリクエストパラメータから、ワークフローのリクエストパラメータを取得し、アーカイブ案件の詳細画面(ワークフローで利用していた詳細画面)を呼び出し、ワークフローのリクエストパラメータを受け渡す処理を行う画面が設定されています。

```
archiveMatterPagePathType = "1"  
archiveMatterPageScriptPath = workflow_bpw/archive/detail/archive_detail_frame
```

初期設定を変更した場合は、ワークフローの詳細画面を表示できない場合があります。

8 注意事項

- ワークフローアーカイブ
 1. ワークフローアーカイブモジュールを実行する前に、万が一障害が発生したときに備え、DB データとストレージサービスのバックアップを行ってください。
 2. ワークフローアーカイブモジュールは、アプリケーションロックなどの排他制御を行っていません。
 3. ワークフローアーカイブ後処理案件
- アーカイブ案件
 1. サブプロセスは親プロセスに統合されます。
 2. サブプロセス(申請)の場合は、親プロセスと統合された案件とは別に、フロー情報、履歴情報は、親プロセスの案件と同じで、別案件となります。
- 詳細画面(過去案件)
 1. **ワークフローの API の利用は推奨しません。**
 2. プロセス種別がビジネスプロセスワークフローの場合でも詳細画面はポップアップで表示されます。
- フロー情報
 1. サブプロセスの「スイムレーン」は表示されません。
 2. 親プロセスのサブプロセスタスクに紐づいた注釈の紐づけは解除されます。
 3. 「自動実行タスク」「イベント処理タスク」は「システムノード」に置き換わります。
 4. 「手動処理」は、設定により「システムノード」に置き換わりか、省略します。
- 履歴情報
 1. 結果「振替処理」は表示されません。
 2. 結果「対象者自動パス」は、「承認」と表示されます。
 3. 結果「プロセス操作」は、「案件操作」と表示されます。
- FormatCreator を利用したプロセス
 1. FormatCreator を利用したプロセスは、詳細画面表示する際にワークフローの API を利用しているため、ワークフローの案件は削除しないでください。
 2. FormatCreator の PDF 出力でフロー情報を表示する場合は、ワークフローの API を利用しているのため、ワークフローの案件は削除しないでください。

**IM-Workflow Ver.7.2
ワークフローアーカイブ 仕様書**

2011/04/01 初版

**Copyright 2000-2011 株式会社 NTT データ イントラマート
All rights Reserved.**

TEL: 03-5549-2821

FAX: 03-5549-2816

E-MAIL: info@intra-mart.jp

URL: <http://www.intra-mart.jp/>